

## 『安全・安心な学校づくりのための校内安全点検について』

### 1 研究テーマ設定の背景

6年前、現勤務校に着任し、本校の災害に対する備えの取り組みについて知り、実際に訓練を行ってきた。その中で、地震が起きた際、安全を確保するために、物を固定する、高いところに物を置かない、防火扉の表示、目でみてわかる避難経路階段の表示（校内の階段には赤、青、緑、黄で色分け）など、今では当たり前のようになっているが、それには意味があり、児童生徒を守るため、安全対策のためにされていることを実感した。

前年度、保健部主任になり、学校重点目標の一つである「ヒヤリハット報告の推進」にPLとして関わることになった。「ヒヤリハットとは何か」「インシデントとは何か」「ヒヤリハット報告の意義とは」などを考えながら、とにかく昨年度は「ヒヤリと思い、ハットしたことを積極的に報告し合う」ことを重点的に進め、安全点検結果もヒヤリハットで報告するようになった。報告をし合う中で、報告者が改善点を考えて報告や改善をしたり、学部会で当月の報告内容を確認し共通理解をする時間を設けたりする等、ヒヤリハット報告を活用した。その報告は昨年度254件になったが、その中で、施設・設備に関するものは「壁のはがれ」「掲示に使う画鋏がテープでとめられていなかった」などが多かった。すると、「本当に安全なのだろうか」と思うことや当時の安全点検が「児童生徒の安全を守るために機能されているのだろうか」という課題も出てきた。それらを保健部で話した結果、『安全点検表』の見直しをすべきであると同時に、「教職員に安全・安心に関する意識の差がある」ことも見えてきた。そこで、児童生徒が安全・安心な環境の中で活動できるような環境作りのための視点を取り入れた『安全点検表』の作成を考えた。

### 2 研究内容・実践の経過

「安全に対する視点を持った安全点検を行うことで、安全・安心な学校づくりにつながるのではないか」という仮説のもと、研究、実践をしてきた。

まず、他校のものや、文部科学省の『安全点検チェックリスト』を基に、本校独自の『安全点検表』を作成した。その『安全点検表』は、普通教室、特別教室、グラウンド、プール、中庭などの場所ごとに作成され、各階の廊下に設置している車いすの点検や TV 台のボルトのゆるみやキャスターの破損はないか（昨年度のヒヤリハットより）などの視点を加えた。

また、提出された報告結果を、保健部の安全点検担当や事務職員と確認し、必要な処置や修繕を行ったり、注意喚起を促す表示を掲示したりした。また、昨年度から継続した取り組みとして、担当者がヒヤリハット報告でも提出することで、担当者以外の者にも注意を喚起するようにした。

## 年間の取り組み

- ① 安全点検表の作成(5月に作成)
- ② 奇数月に安全点検(実施中)
- ③ 報告された内容を分掌内で確認、対応(分掌部会にて、または分掌の担当と)
- ④ 特に注意の必要なものに関しては学部会で共通理解(担当:副学部主事)
- ⑤ 昨年度の報告内容との比較(12月)
- ⑥ 今年度の安全点検の反省・見直し・成果の検証(2月)
- ⑦ 安全点検の必要性と意義について確認(職員会議での分掌反省にて)
- ⑧ ヒヤリハット報告の分析と本校の視点を加えた安全点検表の作成(3月)

## 3 実践の分析

### (1) 昨年度の安全点検の内容と対応

本校は一人ずつ安全点検の場所を担当し、2か月に1回の安全点検を行っている。昨年度の安全点検で報告された不良箇所の報告は以下の順に多かった。

	報告内容	対応内容	対応者
①	壁の剥がれ	事務室が購入した壁紙シールを購入し、広範囲、剥がれが激しい、児童生徒に対して危険性がある箇所には貼って対応	報告者 事務 保健
②	水の流れの悪さ、漏れ	使用しなくても支障のない場所に関しては使用禁止の貼り紙掲示、注意を促す貼り紙の掲示、必要な場所については修繕	事務室 担当者
③	ドアノブの破損	そのまま使用できるための表示の掲示	担当者事務室

図1 令和2年度安全点検報告

安全点検と同時にその内容をヒヤリハット報告でも提出するようにしていた。

①の壁の剥がれに関しては、壁紙を事務室が購入し、気づいた人がその都度修繕する姿が見られるようになった。壁の剥がれが大きく、児童生徒の指が引っかかりそうであった状況を改善したり、座って靴の履き替えをすることが多い場所での誤飲を防いだりすることができた。

②の水の流れの悪さや、水漏れに関しては、必要に応じて事務室が対応してくれた。

③のドアノブに関しては、児童生徒が普段使用しない場所でもあったため、掲示を加え、そのまま使用できるようにした。また、当時のスクールサポートスタッフが、そのまま安全に使用できるように、来客等への配慮の視点も加え「押す」「引く」の表示を加えてくれた。

昨年度の反省を行い、『安全点検表』に項目を加えた。

分掌部会の際に、特に点検してもらう項目を話し合い、月毎に「期間を過ぎた掲示物

が貼られたままになっていないか（環境面）」「高いところに物は置かれていないか（安全対策）」などの視点を加えて点検するように呼びかけた。

その結果、ヒヤリハット報告と関連して、環境整備や個人情報保護の観点から、放送室や給湯室の不要物の整理整頓を昨年度末に実施し、空いた場所に分掌ごとのロッカーを設けることができた（点検者：教務主任、呼びかけ：教務主任）。

手洗い場の角やロッカーの角にはコーナーガードをつけることで、児童生徒がぶつかった際に怪我などをしないように対応した。（点検者：各該当場所の担当、取付：各該当場所の担当者、保健部）

## (2) 今年度の安全点検の内容と対応

報告件数で見ると、昨年度は59件（奇数月に実施、全6回）、今年度は89件（奇数月に実施、11月まで）と、多くなっている。

その内容の中で、昨年度には報告されなかったものとして、壁のひび、手すりのささくれ、グラウンドのフェンスの破れ、床面の浮き、ベランダの天井のはがれ、固定されていない冷蔵庫、滑り台のナットの外れ、着地面のマットの破損、体育館倉庫の整理の必要性などがあつた。

いずれも、今年度点検項目に加えたものであり、加えたことで点検され、必要な修繕を行うことができ、児童生徒の安全につながったのではないかと考える。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

4で述べたように、項目を加えた安全点検表を用いることで、視点を持った点検ができつつあり、必要な対応がされ、それが本研究の目指す児童生徒像でもある「安全・安心な環境の中でいきいきと活動する児童生徒」につながってきたのではないかと考える。

	報告内容	対応内容	対応者
①	滑り台着地面のマットの破損	マットの交換 →滑り台を滑った後の足のひっかかりによる転倒等の防止	報告者 事務
②	滑り台の留め具（ナット）が外れていた	担当が報告とともに学部主事に相談後、事務室に修繕依頼 →使用時の安全確保	担当者 学部主事 事務室
③	車椅子のパンク	空気を入れて対応 →緊急時への備え	担当者 事務室
④	体育館倉庫の整理整頓	夏季休業中に報告者が中心になって整理整頓 →用具等の安全な出し入れ	担当者 体育担当

図2 令和3年度安全点検報告

図2は、報告された内容とその対応の一部である。

①②は中庭の遊具に関するものである。滑り台を児童と一緒に滑る、着地箇所待つ、見守りをする教員がほぼ毎日いるものの、児童の指導支援にあたる中で、その場所以外の不良箇所等に気づくことは難しいこともあってか、これまで①②のような報告はなかった。「留めネジの腐食やゆるみはないか」という視点を持った安全点検を行ったことが、不良箇所を発見し対応できた一因と考えられる。

③各階に設置している車椅子の点検を加えたことで、タイヤがパンクしていることがわかり空気を入れ、必要に応じて虫ゴムを交換するなどの修繕を行い、発作等の緊急時に備えることができた。また、来年度からは業者にタイヤやその他の動作確認などの点検依頼をするようにし、本当に必要となった時に機能できる環境が整ってきたと考えられる。

④「用具の置き場所が決められ整理整頓されているか」という視点のもと、体育館倉庫の整理整頓がしたことで、児童生徒が用具を安全に取り出すことができるようになり、器具が倒れてくる、足をひっかける等の事故を防ぐことができた、等の成果が考えられる。また、倉庫の中に担架があることがわかり、使用可能か、誰が管理(担当)するのか、置く場所は適切かなどを話し合った。

その結果、体育館倉庫に担架があること、表示をしている場所等を職員朝礼で知らせ、緊急時に使用できることを周知した。

これを機に、3階男子職員更衣室にあった担架についても、防災担当の教員と再確認をし、同じように周知した。

これらの事例から、点検する際の視点を入れた安全点検表の活用は、安全・安心な学校づくりのための一つの手立てとなり、安全・安心に対する意識のベースを作ることができたのではないかと考える。

上記の事例以外でも、勤務経験が初めての職員からは「項目があることで点検すべき内容がわかった」「項目がないと何を見たらよいのかわからなかった」「項目があることでこれまでの経験に加え、新たに点検内容や視点を知ることができた」という声があった。学校全体の組織としては、今年度も学校重点目標の一つが「ヒヤリハット報告の提出と活用」であり、ヒヤリハット報告が活発にされ、必要な対応がされてきていることや、副学部主事が中心となり、学部会にて共通理解を図ってきたことで、安全に対する意識がついてきたのではないかと考えられる。

## (2) 課題

5月の研修の際、私が目指す児童生徒像である「安全・安心な環境の中でいきいきと活動する児童生徒」のため、安全点検は一つ的手段であり、その背景には、気づく人をどう育てていくか、気がついているが行動しない人の意識化という点が課題にあがった。

気づいて対応する人に共通してあるものは、「担当＝責任」という意識であり、「もし～だったら」という想像をしながら点検・対応をしていることだ。その職員は当たり前と思って行動しているが、こういった人の行動の良さや意識、価値を朝礼や職員会議、会議スペース等を使って全体に伝え、手本となる行動を示し、周りの職員の意識を向上していく取り組みを継続していきたい。同時に、こうしてすでに行動に移している職員の行動やその結果を反映さ

せる機会を設けることで、モチベーションや意識も更に上げていき、安全・安心な学校づくりに対する意識の向上を図っていききたい。

また、分掌内では、本年度までの取り組みの成果や、課題となった事柄を改善して次年度に引き継いでいけるよう、取り組んでいききたい。その一つとして、安全点検においては、各担当が点検する際に、現在の点検項目以外にも必要な項目がなかったかを呼びかけ、それらを加えながら、より有効な安全点検を行い、職員の意識を高め、安全・安心な学校づくりを目指していききたい。

「ミドルリーダー」と呼ばれる立場になってきた今、支え合える、高め合えるチーム作りを意識し目指しながら、分掌だけでなく、児童生徒の指導・支援についても、取り組んでいききたい。